

政府調達におけるRFP解析方法の提案

東芝ソリューション株式会社

井無田 輝

Imuta.Akira@toshiba-sol.co.jp

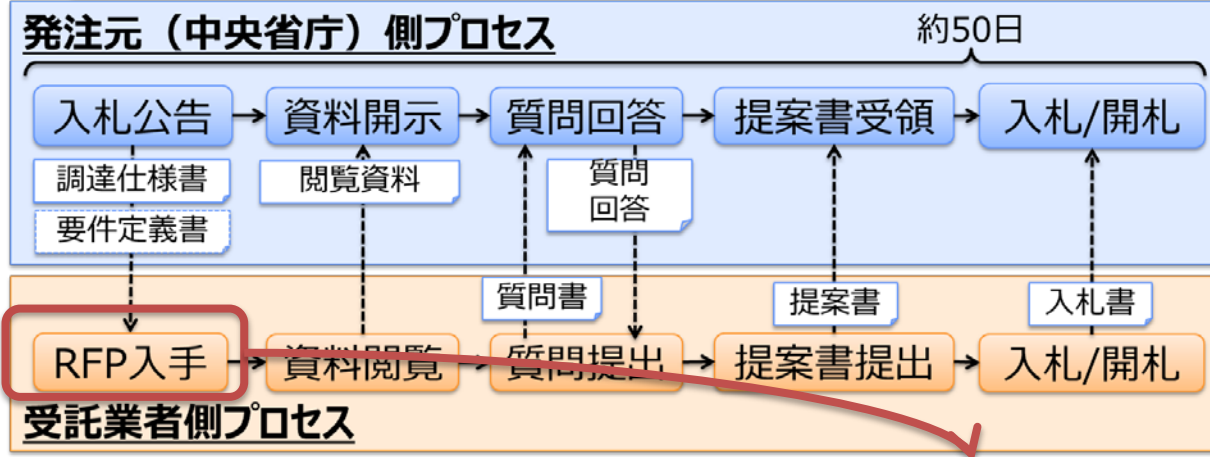
背景・課題

政府調達では、入札に係るプロセスが定義されており、公開されるRFPに対して受託業者がその要件を確認する機会が限られている。限られた機会を有益に活かすため、RFPの確認の際、要件の抜け漏れを早急に把握することが必要となる。

手法・ツールの適用による解決

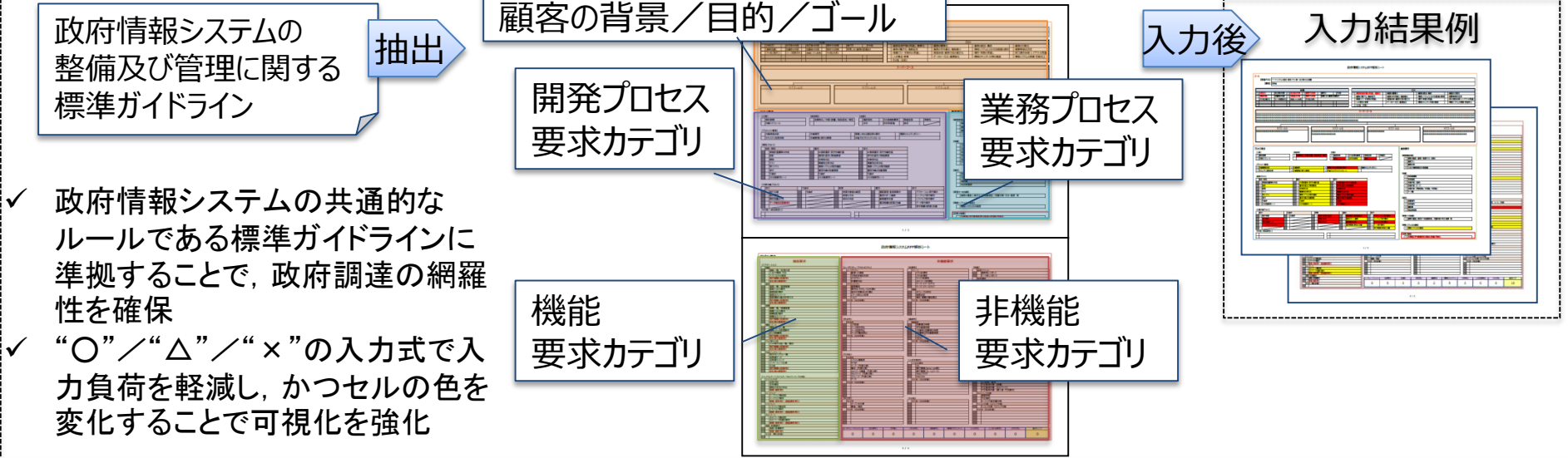
要件の抜け漏れの可視化を目的とし、政府調達におけるガイドラインに準拠した“政府情報システムRFP解析シート”を作成した。作成後、“政府情報システムRFP解析シート”の実業務への適用を視野に実際に公開されたRFPを利用した検証を実施した。

提案手法



- ✓ 政府情報システムの調達で提供されるRFP(調達仕様書／要件定義書)の要件の網羅性(要件の有無)の把握およびプロジェクトリーダーの要件の認識状況を可視化することを目的に、政府情報システムRFP解析シートを作成。

政府情報システムRFP解析シート



評価

- 入力方法に応じたセルの色変更により、プロジェクトリーダーが認識する要件状況の可視化を実現。
- 記載者により要件の有無の判断が異なる箇所あり
- 本シートの作成時間は約3時間であり、実業務での適用は可能。

まとめ

- シート作成にかかる時間、可視化の仕組みについて、実業務での適用は可能。
- 記載者により揺らぐ要件の有無の解釈について、さらに検証数を増やし、分析が必要。
- 要件の網羅性を高めるため、継続的にシートの内容のメンテナンスが必要。